

令和 3 年度

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 ②

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390500122		
法人名	株式会社 サザンクロス		
事業所名	グループホーム 宮ノ里 ②		
所在地	〒025-0002 岩手県花巻市西宮野目第13地割121-2		
自己評価作成日	令和3年9月16日	評価結果市町村受理日	令和3年11月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

毎年、全体目標、個人目標を掲げ、達成できるように心掛け取り組んでいる。スタッフ会議において議題を職員より募り日頃感じている。
問題点を共有し、かつ改善に向けた取り組みを検討している。コロナ禍で地域の行事の中止、外出の減少があり、日々入居者が張り合いをもてる環境作りに苦慮している。新入職員が増え、日々スキルアップに各職員が協力して取り組んでいる。また、指導にあたり、自身の業務の「確認」「多角的視野」への発展を望むことが出来る。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は、市内西宮野目地区にある平屋建て2ユニットの事業所である。理念に基づき、利用者一人一人の機能や状況に応じた支援が行なわれるよう、事業所の目標、個々の職員の目標を定め、ケアに取り組んでいる。管理者は、職員の気づきを大切に、コミュニケーションの確保に努め、職員の資質向上、リーダーシップの育成に尽力している。利用者支援を行なう上で、現状に満足することなく、コロナ禍にあってもできることを確実にやり、解決に向けて取り組む姿勢ができています。利用者の家族への担当職員によるお便りの送付、選択できる食事やおやつ(弁当の日、和菓子の日等)の実施など工夫されている。かかりつけ医や訪問看護師、訪問歯科等、医療との連携も円滑に実施されている。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和3年10月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「一人一人のできることを利用者に、できることをやっていただく」を念頭に理念の共有ができており、管理者と対話することができている。	会社の理念とは別に、事業所の理念を「一人ひとりの利用者に、できることをやっていただく」と定め、利用者の役割を持つ、見つけることを目標として支援している。別に、事業所の今年の目標を職員全員が提出し、話し合っ決めている。各職員も個別目標を立てて業務にあたっている。	毎年、事業所の年間目標を決め、また職員個々の個人目標をたてて業務に取り組み、目標の中間評価の仕組みもあり、利用者へのサービス向上に努力されている。今後も、このような取り組みを継続されることを期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	「畑づくり」において地域の方にお手伝いいただいたり回覧板で地域の活動を確認するなどしているが、新型コロナウイルスの影響により交流の機会は確実に減少している。	町内会に加入し、会議や清掃などの行事に参加している。ここ1,2年コロナ禍で総会や行事が休止しており、地域との交流が出来ないているが、散歩しているときに野菜の差し入れを頂いたり、畑作りに地域の方が来てくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所には至らずも、相談の連絡や訪問があり、都度対応をしている。市内の方が入居されており、地域へ貢献できている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議に出席される方々より貴重なご意見をいただき日頃のケアや行事、環境整備に活かされている。	コロナ禍のため、昨年は1回、今年は5月、7月に開催しており、次回は10月を予定している。委員は、家族、地域の方、行政関係となっているが、利用者の参加が課題となっている。議事録は委員の発言どおり記入していたが、個人情報に触れることも考え、市の指導によりまとめた形になっている。前回の会議の課題について、次回検討経過と結果を報告している。	会議は、委員から率直な意見提案がなされ、実現に向けて職員が努力されていることが窺われる。委員は基準省令第85条にメンバーに利用者、利用者家族とあることから、今後利用者の参加を検討されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の際に事業計画やサービスの様子を周知している。また、市町村の担当者より情報を得るなどしている。	運営推進会議に担当課職員や地域包括支援センターの職員が参加し、会議の後など、情報交換や指導助言をいただいている。市との連携に特段の支障は無く、双方にとって有用な協力関係が出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	言葉による物も含め拘束を行わないよう努めている。 やむを得ない場合はご家族様に同意を得るようにしている。(ベッド柵等)	運営推進会議の委員を兼ねる身体拘束適正化委員会の委員に、身体拘束に当たる事例について報告することとしている。研修は、所内の学習係が担当し、年2回は身体拘束に関する内容となっている。立ち上がりや歩行不安定な方の居室に、家族の了解を得て人感センサーを設置している。玄関にも設置している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 ②

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止に努めているが、今後も勉強会を実施する等周知徹底を図ってきたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている方がおり、新入職員を中心に学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に重要事項説明書等で説明を行い理解を求めている。さらに不明な点、疑問等がないか確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議、ご家族の面会の際にご意見を伺うよう努めていたが、新型コロナウイルス流行後は、受診等で来所された際伺っている。また、公に発言のない要望もあると思われるので、何らかの方法を模索したい。	コロナ禍で、家族の面会は減少しており、家族が通院に同行する際に要望等を聞いたり、運営推進会議でも意見を聞いている。利用者毎に、各担当者が記名して日々の生活状況を写真・伝言入りのお便りで送付しており、レクリエーション参加時の表情や通院状況が伝わるものとなっている。電話で連絡を取りにくい家族には、手紙などで対処しているが、緊急時の対応などは検討課題となっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議と日々の申し送りで実施されている。	毎月のスタッフ会議は担当者を決めており、事前に意見を集めた上で話し合いしている。最近の会議では、コロナ対策として玄関での面会を検討している。ケアカンファレンスは不定期で、問題のある事例の検討が中心になっている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与体系の整備、および今年度より夏休みが付与された。また、時短勤務、時差出勤制度も整備された。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は研修に参加し、他の職員への勉強会などでフィードバックしている。新入社員の外部研修を行っているが、コロナの影響により中止になったものもある。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	新型コロナウイルスの影響により十分な取り組みが出来ていない。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面接、および調査時の情報をもとに接することによってご本人様が平穏を保てるよう努力しているが、発信力の弱い方については弱い部分がある。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	申し込み時、および面接調査時に困っていることや要望を伺うよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前情報が乏しいこともあり、難しい事例もあるが対応できるよう努めている。その後、都度対応し検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の方々の関係が円滑に行えるように橋渡し等行うよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在はコロナ禍もあり面会は控えていただいているが、受診等の際のコミュニケーションや、月に一度の「お手紙」にてご用紙をお伝えしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 ②

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日頃の会話の中で過去的话题に触れたり、折に触れご家族様との電話連絡等できるように努めている。	近隣からの利用者は少なく、馴染みの場所への訪問などは難しい。コロナ禍で、親戚や友人の訪問もない状態が続いている。床屋さんやマッサージ師の方が馴染みの関係になっている。盆の帰宅者は一人だけで正月に帰宅した方はいない。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い方々を隣の席に配置するなどして良好な関係を築けるよう配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設へ移動された方への継続的なフォローはしていないが、事務連絡等の際等、近況をお伺いする等している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や表情からご本人の希望を把握するよう努めている。また、ご家族との連絡の際に伺うなどしている。	居室担当者は、家族との連絡や受診の付き添い、利用者個々のお便り作成等、日々の暮らしの中で、利用者の思いを汲み取り、個別記録に記載し職員間で共有している。利用者の意向や気づいた事柄を介護計画に反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	事前訪問の際、他事業所やご家族様より確認に努めているが、独居やご家族との関係性が希薄な方も多く課題である。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	活力のある方には「お手伝い」をお願いしたり、心配事や質問等についてお調べするなど安心感、信頼感の構築に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の確認や申し送り等によって変更をする等試みているがユニット全体での話し合いを持つ機会が不足している。	介護計画は、利用者全員の直近の計画を1冊にし、職員全員が共有している。介護度の変わるタイミングが大事であることから、認定調査時には家族に同席してもらい、意見要望を聞いている。居室担当者がモニタリングし、他の職員の意見を踏まえ計画作成担当者が計画を作成している。計画は、家族に説明し了承を得ている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 ②

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録への記入は行えているが、確実に実践に移すことが課題である。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	受診対応の困難な入居者ご家族様に対しては施設で対応をするなどの支援ができています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍もあり、傾聴ボランティアは中止となっているが月1回の理容サービスは継続し、整容面での資源活用は出来ている。頻繁に外出等が可能になることを期待する。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医を継続される方が多いです。受診の際、ご家族様へご様子を伝達し、反映させている。	かかりつけ医への通院は家族同行が原則であるが、家族が遠方に居住していたり、高齢などで困難な場合は職員が付き添っている。月1回訪問診療があり、歯科は往診を利用し、医療との良好な関係が築かれている。訪問看護師も毎週1回来所している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設看護師と協働し処置・処遇に活かしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時は、施設でのご様子・経過を報告しており、また退院時は、退院前カンファレンス等で情報提供をしていただき、その後のケアに役立っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	訪問診療、および訪問看護と連携をし、終末期ケアを行っている。	看護師1名を配置しており、重症化した場合、家族の希望により看取りを実施している。管理者は外部の研修に参加し、その内容を職員に伝えながら、支援の体制を整えている。急変等に供え、全職員の研修を実施していきたい。	重度化や終末期、急変時の対応について研修の機会を設け、一人一人の職員の資質を高めるとともに、かかりつけ医、訪問看護師等がチームとなって支援されることを今後も期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当、急変時の対応について各職員でスキルに差が生じている。新人職員もおり、不安に感じている者もいる為、今後も急変等に対する勉強会が必要である。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練において災害時等の対処に努めている。今後も、様々な災害を想定し訓練を積み重ねていきたい。	事業所は、瀬川の直近に位置しているが、市のハザードマップ上で水害危険地域には指定されていない。市や消防に発災時の支援を要請したが、自力で避難できる体制を整備しておくように助言されている。本社では、川の橋脚に遠隔監視カメラを設置し、必要時監視する仕組みを導入している。	これまで、夜間の避難訓練を実施していないことから、夜間に、30秒間消灯したり車椅子で外に出るなど、暗い状態での避難訓練を実施し、課題を抽出しその対応を検討されることを期待する。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	尊厳とプライバシーに配慮するよう努めているが、自身と他職員の感覚にズレが生じている場合もあるので検証していきたい。	理念に基づき、利用者がその人らしい暮らしができるように支援するよう努めている。そのため、プライバシーの確保を最優先とし、ケアにあたっている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の話題の中で、希望を伺ったりしているが、遠慮されている方もいると思われる。職員等に話しやすい雰囲気を持てるようにしたい。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の日課を励行しつつ、できる限り希望に沿う形にしているが、職員配置の関係もあり、常時ではない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に沿った服装をしていただくよう声掛け、配慮をしている。ご自身の着用したいものをご一緒に外出し購入できればよい。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	コロナ禍もあり、一緒に食事は摂っていないが、好みを伺ったり外部より食事を取る等飽きの来ないよう工夫している。	月1回弁当の日を設け、3種類程度の中から選んでもらっている。カツ丼が好評である。和菓子の日、フルーツの日も設けている。マツタケご飯、芋の子汁等、季節の食事を楽しんでいる。食形態は、普通食、刻み、おかゆ、液状の濃厚流動食経腸栄養剤等個々の機能に合わせ提供し、口から摂取することを維持している。利用者は、調理には参加できないが、下膳、食器拭きを役割とし積極的に手伝っている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューの検討、残食量、水分摂取量の把握を行っている。食形態についても、刻み食・ミキサー食の採用栄養剤、補液等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアの実践、およびその方にあった器具の使用により個別対応している。必要に応じ、訪問歯科の受診もある。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、日々の排泄の把握に努めている。時間によっての声掛け、誘導を行っている。	トイレでの排泄を支援している。おむつ、リハビリパンツ、尿取りパット併用と、一人一人の機能に合わせた排泄用品を検討し使用している。歩行に不安がある方が、本人の希望で夜間のみポータブルを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の食事の中で通じの良くなるものを多くメニューに加えるなどして工夫をしている。入居者により浣腸の施行をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	施設の予定での入浴がほとんどであるが、気持ちの乗らない場合は無理強いせずご本人様の希望を尊重できていると思う。	週2回入浴しており、希望で1日おきの利用者もいる。入りたくない意思表示した際は無理強いせず、声掛けを工夫し、シャワーなどで対応している。同性介助を希望する方には配慮している。身体の観察で心配なことがある場合には、看護師に相談し適切に対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 ②

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前のテレビ鑑賞を尊重するなど、睡眠時間や昼寝には制約を設けず支援されていると思う。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方一覧を確認するなどして実施できている。服用の際は職員2名での服薬管理をしており、誤薬の防止に努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	役割分担を担っていただく方もいるが、全員が対象とはなっていない。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。 又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍の為なかなか機会を設けることはできていないが、施設周辺の散歩や花見、及びドライブ等の予定をできる限り組んでいる。	コロナ禍で、外出は困難である。建物の構造上、玄関に近い2号館が1号館より散歩に出やすく、事業所周辺を散歩している。買い物の希望もなく、外に出るため様々工夫して声掛けし、花見などの季節のドライブを出来る限り実施している。避難訓練の意味も含めて、外出支援に努めたいとしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的にご本人での所持は制約している。立替払い後、清算する形を取っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	常時ではないが、電話の取次ぎをしている。また、家族了承の下、携帯電話を所持されている方もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カレンダーの設置、季節に合った飾りつけ、清掃による心地よさ等に配慮している。また、時節により空調の調節等している。また、日々のご様子や行事などの写真を張り出すなどしている。	共有空間は明るく清潔に保たれ、温度管理も適正に実施されている。壁面は、季節の飾りつけがされ、食卓・椅子、テレビ、ソファが配置されている。職員と風船バレーに興じたり、会話をしている様子を観ることができた。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム 宮ノ里 ②

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々の席を隣同士にしたり、ソファの設置により、くつろいで過ごせる空間を提供している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのあるものをご持参いただいたり、写真を貼るなどしている。ご本人の使い勝手を考慮したベッドの配置などしている。	入居時に使い慣れたものを持参し、本人や家族が、今までの暮らしに配慮した配置としている。絵画や家族の写真を掲示している。寝具や衣装ケースを新しく購入される方もいる。職員は、必要に応じて支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室にはご本人様の名前を貼りだしている。また場所の把握がしやすいように「トイレ」などの貼りだしもしておりわかりやすさを演出している。		